



南 置 賜 郡 萬 世 新 道 の 内 瀧 石 橋 の 図

瀧ノ沢石橋の図（高橋由一画：山形大学附属博物館蔵）

萬世の大路

第3号

H19.8.15 発行

発行者

歴史の道万世大路、万歳の松
保存会 会長 田畑 實

事務局

万世コミュニティセンター
TEL 0238-28-5381



昭和7年完成のコンクリート橋も欄干が崩れている



橋の上に敷いた砂利が厚くなっている

ハイカラな石橋

明治九年からの栗子隧道工事は難工事であったが、山形県令三島通庸の強い心念と大久保利通内務卿との連携のもと、日本一長い隧道を完成した。

当時栗子山は坑甲嶽といわれていたが、地元では栗の実に似ているので栗子山と呼んでいた。栗子森という地名もあることから、県令は栗子山と称することにした。（工事は栗子山隧道工事）

道路の幅は当時馬車が通行できるように四間幅とした。

溪流栗子川に橋を架けるのに、岩壁を削り石畳を積み上げ石橋とした。三島は薩摩藩出身であり、きれいな薩摩の石橋に思いを寄せていたのでしよう。山形ではハイカラな石橋として親しまれている。欄干も石造りであり、景観に潤いを持たらし、新しい文化の取り入れに心を注いでいる様子が窺える。

今は、昭和の改修により鉄筋コンクリート橋となっている。

